

一般財団法人京都ユースホステル協会

2012年度事業計画書

期間：2012. 4. 1 - 2013. 3. 31



一般財団法人京都ユースホステル協会は
新しい旅と、旅する青少年の健全な成長を応援します。

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内

TEL : 075-462-2312 FAX : 075-462-2289

<http://www.yh-kyoto.or.jp/> E-mail : kyh@yh-kyoto.or.jp

目 次

	頁
目 次	2
2012 年度 概況	3
(1) はじめに	
(2) 方針と目標	
I . ユースホステル活動および関連事業	4
(1) 青少年育成事業	
(2) 旅行 (ホステリング) 事業	5
(3) ユースホステル関連事業	
II . 指定管理事業	6
(1) 宇多野ユースホステル	
(2) 天橋立ユースホステル	9
III . 組織運営	11
(1) 運営業務	
(2) 運営体制	
IV . 予算	12
(1) 予算概要	
(2) 2012 年度予算書	



2012年度 概況

(1) はじめに

ユースホステルの国際的なネットワークとの連携を強化し、品質管理マネジメントシステム（HI-Q）やグループ予約、WEBによる情報共有システム（HIWAY）等の新しい国際システムを活用し、運営の質の向上や利用の促進、情報発信を図ります。

また、多様なパートナーと連携し、ユースホステルならびに周辺地域が持つ教育的な環境（地域の自然や景観、歴史や文化、食や産業、人材等の資源）を生かした事業や取り組みを充実させます。

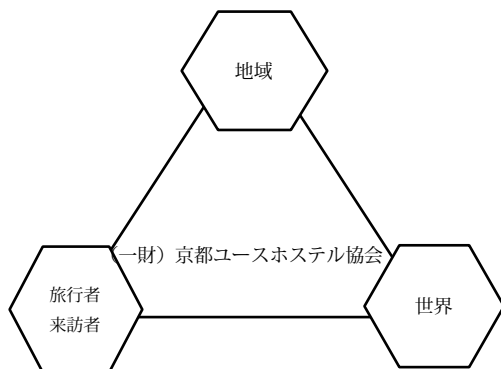
世界や時代の変化、ニーズを見据えながら、地域

の特色、魅力の発掘や体験事業のモデルづくり、来訪者や参加者を地域とつなぐ魅力的な滞在や体験プログラム等を創造し、仕組みづくりを行います。

これらの取組みにより、新しいユースホステル活動を展開します。

また、国内外からの利用に応えた運営と経営が両立する新しいユースホステルのモデルを確立し、当協会が独自に運営するユースホステル整備を目指していきます。

ユースホステルの取組みや事業の役割、位置づけ



(2) 方針と目標

(一財) 京都ユースホステル協会は、昨年度同様に、「旅」をコアコンセプトとする事業を展開し、青少年の健全な成長と、旅行者のにぎわいに寄与できるように活動していきます。

特に今後のユースホステル活動の発展のためにはユースホステルの存在や役割を広く社会に知らせることが必要と考え、1月末に登録が完了しました第1種旅行業資格を活用した事業展開により「ユースホステル」の社会的役割を高めるとともに、業務の質・量の向上に意識し、ひきつづき認知度の向上を図ります。

また、安定した財政基盤の確立を目指します。

数値目標：

- 1) 総合年間利用実績者数：51,800人
 - a. 宇多野ユースホステル宿泊者数：36,000人
 - b. 天橋立ユースホステル宿泊者数：3,800人
 - c. 「旅」事業・イベント参加者数：12,000人
- 2) メールマガジン発行 3,000人
- 3) 取材記事・放送回数：20件（募集記事を除く）

実行指針：

- 1) 世界（海外）と連動。
- 2) 新しい「旅」関連事業を開発し催行。
- 3) 実行体制（外部含む）の整備。

1 ユースホステル活動および関連事業

ユースホステルの独自性である「旅が人を育てる」活動を通して、青少年の育成に寄与すると共に広く社会での認知度を上げる取組みを行います。

【目標】

- 「旅」事業・イベント総参加者数：12,000名
- 外部団体との連携による事業・イベント数：30団体以上/600回（エブリデイワン除く）

(1) 青少年育成事業（公益目的事業）【目標 10,000名】

1. 青少年育成事業の実施

事業・イベント名	内容・目的	運営主体・協力者	備考
a. アースレンジャー アースキッズ	年少から中学生を対象にした年代別自然体験プログラム	一般財団法人 ポジティブアース・ ネイチャーズスクール	継続
b. フレンドステイ - なかよし宿泊プラン -	小学生を対象に親元から離れユースホステルで過ごす宿泊体験プログラム		継続
c. ネイチャーキッズ	小学生を対象に年間を通した多世代交流プログラム	ネイチャーキッズ京都	継続

2. ユースホステル交流創出事業の実施

事業・イベント名	内容・目的	運営主体・協力者	備考
a. エブリデイワン	宇多野ユースホステルと連携して365日、滞在者の満足度向上と宿泊者同士や宿泊者と地域の交流を促進	宇多野ユースホステル 地域住民	継続
b. 若者コンシェルジュ	地域市民による旅行者に対しての観光案内やお勧め情報の提供	大学生、京都学生ガイド協会 立命館大学インターンシップ	継続
c. 就労体験事業	地域の支援学校や中学生の就労・社会体験の受け入れを実施	京都市内中学校 若者サポートステーション など	継続
d. スプリング・フェスタ	若者が関わり、地域と一緒に盛り上げる宇多野ユースホステルでのイベント	宇多野ユースホステル 大学ユースホステルクラブ	継続

3. 国際協力・交流事業の実施

事業・イベント名	内容・目的	運営主体・協力者	備考
a. 青年研修事業	日本の基礎的な技術や知識を習得を目的にした研修事業をコーディネート	国際協力機構（JICA）	継続
b. 国際交流事業	外国人と子どもがふれあい異文化理解を図るプログラム	大阪ユネスコ協会 アクトレップ（株）	継続

4. 活動普及事業の実施

事業・イベント名	内容・目的	運営主体・協力者	備考
a. タビガラ。	若者を対象に旅を啓蒙する事業。 学生の旅を発表するコンテストを実施	タビガラ。実行委員会	継続
b. ウォーキング事業	みんなで歩こうファミリー万歩や京都1周トレイルなどの「歩く」イベント	万歩会、京都新聞社 アクトレップ（株）	継続

(2) 旅行（ホステリング）事業（その他事業） 【参加者目標:2,000名】

事業・イベント名	内容・目的	運営主体・協力者	備考
a. 京都たびたび	地域を元気にする市民参画の旅をメニューにした仕組みづくり	京都に住む人 京都たびたび実行委員会	計画中
b. ニューツーリズムの開発	テーマ別の体験旅行の実施 NPO 含む各種団体協働したツアーの実施	NPO・市民活動団体 旅行会社	計画中
c. 海外ユースホステル協会や 海外の団体と連携した旅の開発	世界 4000ヶ所あるユースホステルを活用したモデル事業の企画および実施	海外各ユースホステル協会 各種団体・旅行会社 他	計画中
d. 天橋立ユースホステル宿泊誘致 のための販路の開拓	天橋立ユースホステル周辺で行われる活動や情報発信と企画旅行の開発を行う	宮津市エコツーリズム協議会 旅行会社 他	計画中
e. 旅カフェ・プロジェクト	若者のチャレンジしたい企画の実現を コーディネーターし人の集う空間づくり	旅カフェプロジェクト実行委 員会 他	継続

(3) ユースホステル関連事業（その他事業）

個人や家族からグループ・貸し切り団体まで、宿泊の形態や年齢層、ニーズが多様化しています。また、外国人のベジタリアン食や身障者の特別食、子どものアレルギー対応など、個別ケースへの対応も求められています。

そこで、ユースホステルのコンセプトを再整理した上で、多くの方にユースホステルでのより快適な滞在を提供するための事業（食堂運営、物品販売、各種レンタルなど）を提供していきます。

【目標】

- 年間目標摂取率：（夕食）62%
（朝食）82.5%
- アンケート満足度評価：4.0点以上
※ 5段階評価



↑宇多野ユースホステル「昼食」風景

1. 滞在の満足度を高める食事提供

- a. メニュー改善に向けたアンケートの実施と残食数の把握
- b. 普段とは違ったメニュー提供
シェフお任せメニューや地産食材メニュー、お客様による提案メニュー、サイドメニューや低価格メニューの試行販売を展開し、今まで摂取していなかった宿泊者層へのアプローチを行います。

2. 安定した運営基盤づくり

- a. 食堂専属の職員の配置
スタッフの指導・管理や衛生面の徹底、トラブルへの対応などへの対応を充実します。
- b. 食堂スタッフへの研修や外部視察を実施

3. 利便性と魅力のあるサービス提供、物品販売

- a. 地域物産の販売や紹介コーナーの設置
- b. オリジナル商品の拡充
- c. 顧客にあったサービスや物品販売のリサーチ
および商品展開の見直し

II . 指定管理事業

(1) 宇多野ユースホステル（公益目的事業）

近年の若者のライフスタイルや消費傾向の変化は、旅の場面においても大きな影響を及ぼしており、特に大学生や20歳代の旅行回数が著しく低下してきています。また、東日本大震災による外国人の訪日旅行離れは、今だ続いています。このため青少年や外国人を主たる対象とするユースホステルにとっては、2012年度も引き続き厳しい状況となることは想定されますが、ユースホステルの最大の特徴である世界的ネットワークを最大限に活かし、食や伝統文化、地域交流や新しい旅などをテーマに、特徴ある様々な機会提供を行い、年間宿泊目標の達成を目指します。

また、地域と連携して、地域の方へ付加価値を還元することで、宇多野ユースホステルの社会的価値を高めると共に、京都の観光振興への貢献やファン作りに努めます。

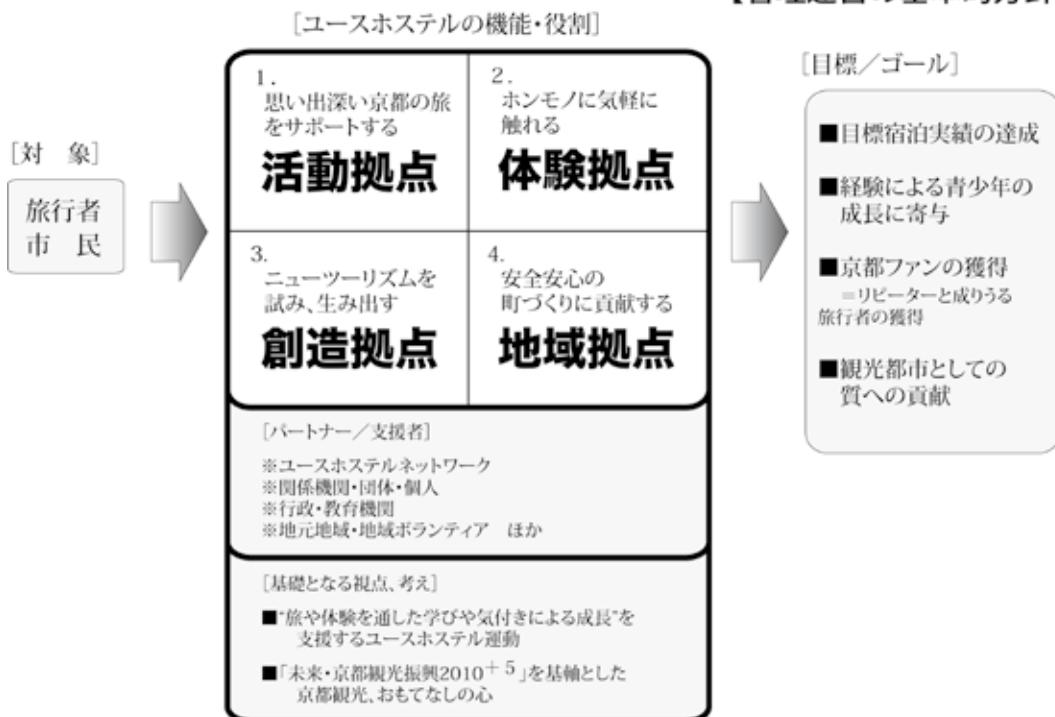
【目標】

- 年間宿泊実績目標：36,000名（ベッド稼働率 58.0%）
- 国際ユースホステル連盟の利用者満足度評価 Comfortable 部門世界1位の2年連続受賞
※ Location 以外の部門でも95%以上を目指す



↑宇多野ユースホステル「日独セミナー」風景

【管理運営の基本的方針】



1. 思い出深い京都の旅をサポートする“活動拠点”

京都における旅の拠点として、おもてなしの心を持って旅行者を迎え入れ、快適で楽しみ溢れる滞在を提供します。

a. 世界水準のユースホステル運営

- 1) 国際ユースホステル連盟が進めるユースホステルの品質管理マネジメントシステム“HI-Q”を本格的に導入し、日々の運営に活かします。
- 2) 接客やサービスの質の向上につなげるため、各部門のミーティングを定例化（月1回）し、目標や情報、課題の共有・解決を図ります。
- 3) サービスや接客・おもてなし等の研修参加、国内外の参考となる宿泊施設の運営や経営、取り組みの調査・視察、職務に応じた職員研修を行い、日々の運営に活かします。

b. ニーズや満足度の把握

- 1) ユースホステルの魅力アップにつながるアイデア募集を宿泊時やホームページで行い、宿泊者がユースホステル運営に参加出来る機会を作ります。
- 2) 引き続き、アンケートやフロント等で宿泊に関する生の声を集め、毎月の会議でその対応策について協議します。
- 3) モニター宿泊を引き続き実施し、特に若者や外国人に期待されるサービスやイベント、施設運営についてニーズの把握を行います。

c. 個人旅行者や外国人旅行者の獲得

- 1) 国内の主要ユースホステルや東アジア、オセアニアのユースホステル協会と連携し、相互のプロモーションや体験型企画旅行による斡旋を行います。
- 2) 個人でも参加しやすい体験ツアーの企画、団体やグループに対してのパッケージ体験旅行の企画を行います。
- 3) ホームページのリニューアルと定期的な更新により、タイムリーな京都情報や周辺地域の魅力を発信していきます。
- 4) 国内外の若い世代に支持されているコミュニケーションツールを活用して、宿泊につながるPRを実施します。

5) 旅行博での営業やブース出展、海外旅行会社との関係性作り、既に宿泊利用のあったグループや団体へのDMの発送を行います。

6) より多くの送客につなげるために、旅行会社への手数料を閑散期には変動させることを試行的に実施します。

d. エブリデイワン事業の魅力アップ

- 1) 宿泊者が希望するイベントを募り、実施することで、より魅力的な内容にしていきます。
- 2) イベント運営を協力してくれるボランティアを増やし、多様な楽しみの機会を提供します。
- 3) 参加者アンケートを取り、満足度の把握と内容改善を行います。

e. 新たなサービスや特典提供

1) “エブリマンス・キャンペーン”と題して、毎月一つ宿泊者に対してのキャンペーン企画を実施します。

例：朝食の無料提供、駅からのバス代負担、閑散期長期宿泊割引、青少年グループ宿泊企画ホームページでの抽選会、宿泊ポイント制度など

2) 国際ユースホステル連盟が進めるMembership Saving Program（ユースホステル会員は宿泊費10%割引制度）に参画し、会員へのベネフィット強化を図ると共に、会員の入会促進を行います。



↑イベント「オータムナイト」の風景

2. ホンモノに気軽に触れる“体験拠点”

ユースホステルの特徴は、経済的且つ快適に宿泊する場所ではなく、宿泊の中で起こる交流や体験といった出来事にあると言えます。

そこで、ホンモノの京の食や文化、歴史などに気軽に触れることの出来る活動を宿泊と併せた形で提供していきます。

(取り組み例)

- 1) 百人一首をテーマにした街歩き
- 2) お香体験、京菓子作り …など

3. ニューツーリズムを試み生み出す“創造拠点”

事業部や行政、外部の団体と連携し、学校交流や国際交流をテーマとした学びのある旅や伝統文化に深く関わる長期滞在型の旅、健康を意識した旅など、従来の観光とは違った新しい切り口での京の旅を、ユースホステルから世界に向けて提案・発信します。

(取り組み例)

- 1) 京都を楽しむヘルスツアー
- 2) 海外インターンとの交流機会の提供 …など



↑宇多野ユースホステルから Ustream で中継

4. 安全安心の町づくりに貢献する“地域拠点”

地域の様々な活動に対しての場所や機会の提供に止まらず、地域における町づくりや担い手の育成にも積極的に協力します。

a. 地域との相互協力

- 1) 地域で期待される役割、地域貢献等について、意見交換や提言をしてもらう機会として、ユースホステル運営サポート委員会（仮称）を設けます。
- 2) 教育旅行団体と地域学校の交流や外国人スタッフの学校派遣など、地域資源を共有して新しい異文化や異世代の交流機会を作ります。
- 3) 地域や関係機関への定期的な情報発信を行い、運営への理解と協力、施設活用の促進を図ります。

b. 災害を想定した準備、連携

- 1) 京都市担当課や地域活動団体、関係機関と協議の上、大規模災害時におけるユースホステルの役割を検討し、その準備を進めます。
- 2) 大規模災害時の役割を明確にし、通常運営から緊急体制へ移行するケースのマニュアルを設置します。
- 3) 避難場所の提供、水や非常食の備蓄等を検討します。

5. その他の取り組み

a. 持続可能な運営体制づくりの調査

- 1) 今後予定されている利用料金制を想定した運営体制モデルの検討、試行をします。
- 2) 宿泊費や食事料金の複数設定や長期宿泊割引を行い、その効果を検証し、先の運営形態に向けたデータ収集を行います。

(2) 天橋立ユースホステル（公益目的事業：食堂・物販事業は含まず）

天橋立ユースホステルでは、これまでの取組みを発展させ、新たな地域の魅力を発見し開拓すると共に、世代間交流や異文化交流などの新しいプログラムや事業を展開し、持続可能な地域におけるユースホステル運営モデルの確立を目指します。

そのため、地域で活動する専門機関や団体、施設、人材とのネットワークを広げ、旅行者と地域の自然や文化、生活、人との出会いをつなぐ交流観光拠点機能を充実させます。

また、ユースホステルの国際的なネットワークを活かして、地域の特色ある情報を海外にも発信し、外国人旅行者の誘致、天橋立地域での滞在促進を図ります。

運営面では環境負荷への配慮や低減、災害対応機能など、地域や社会で求められる役割の充実を図ります。



【目標】

- 地方型ユースホステルの運営モデルの確立
- 年間宿泊実績目標：3,800名



↑地域のガイドによる「スノーシューツアー」

1. 地域資源や魅力を活用したプログラムの実施

自然や文化、食や生活等の地域資源や魅力を活用した体験宿泊プログラムの充実や、事業部が進めている宿泊型事業・イベントの現地での受入れ準備や調整を行う他、多様な地域の魅力に出会う機会を増やし、宿泊の誘致を図る取り組みます。

a. 地域資源や魅力を遊ぶ・楽しむプログラム

- 1) カヌー&シーカヤック体験の実施（3-10月）
- 2) 休耕田を活用した農業体験事業の実施（通年）
- 3) 定置網や棚田、竹林など海、里、山の資源を活かした、食や自然、文化体験プログラムの開拓や提供（通年）
- 4) 地域の魅力に出会うガイドツアーやサイクリングツアーの実施（5-3月）
- 5) オリジナルイベントの開催
夜明けツアーを実施します。
（5~10月の第3日曜日：晴天時のみ）

b. 地域を食するプログラム

- 地元の味覚提供
（丹後のさしみ、カニづくしパック等）

c. 地元の伝統行事ツアー

- 文殊祭り、灯ろう流し&花火大会



↑地域のガイドによる「里山トレッキングツアー」

2. 外部機関や地域との連携によるプログラム提供

外部の専門機関や大学、活動団体やグループ、地域との連携強化を図り、地域の特色や資源を活かした体験プログラムなどの開拓や提供をします。

- a. 宮津市エコツーリズム推進協議会のガイド部会等との連携によるガイドツアー等の通年実施
- b. 外部機関と新しいガイドツアーやウォーキングコースの開発、紹介、集客での協働
- c. 地元漁協との協働による定置網漁業体験や魚の浜買などを宿泊とあわせたパッケージの販売（通年：主に4月～11月）
- d. 建築等の専門機関との連携による施設の特色や魅力作り、新しい価値の提案
- e. サイクリングやウォーキング、アウトドア等の活動団体との連携によるツアー事業の開催、宿泊の誘致、受入れ設備等の整備



↑天橋立ユースホステル「サイクリストの利用」



↑海外からの研修生の受入れ・地域交流

3. 環境に配慮した運営や質を高める取組み

環境評価やHI-Qといった国際的なユースホステルの取組みやネットワークと連携し、環境に配慮した運営や質を高める取組みにより社会的役割、価値の向上を図ります。

- a. 環境マネジメント認証（KES）取得や国際ユースホステル連盟の環境取組基準達成等によるCo2の削減や環境負荷の低減
- b. 国際ユースホステル連盟のマネジメント認証（HI-Q）を導入による運営の点検し、改善
- c. ユースホステルの国際ネットワークや予約サイト等を活用した情報発信やメンバーセービング制度への対応による利用促進

4. 宿泊誘致

- a. 大学や専門機関等への宿泊割引制度
地域調査や資源開拓等の研究やフィールドワークを支援、協力する宿泊割引制度を設けます。
- b. 予約、事業サイトを活用
地域資源を活かした様々な体験プログラムやもの作り、ツアーや保全活動などの活動提供者や作り手と旅行者、参加者を結ぶプラットフォームとなる予約、事業サイトを活用した地域のPRや集客、宿泊誘致を行います。
- c. 海外からの研修生の受入れによる地域での交流機会の提供や海外からの受け入れ環境の充実



↑くつろぎの談話コーナーの風景

III . 組織運営

(1) 運營業務

1. 設備・制度の整備

- a. 倉庫、事務所のフロア一部分の備品および書類の再配置による業務効率の向上
- b. 宇多野ユースホステルのレジシステムの導入
- c. ユースホステルの国際的なシステムと連動する仕組みづくり

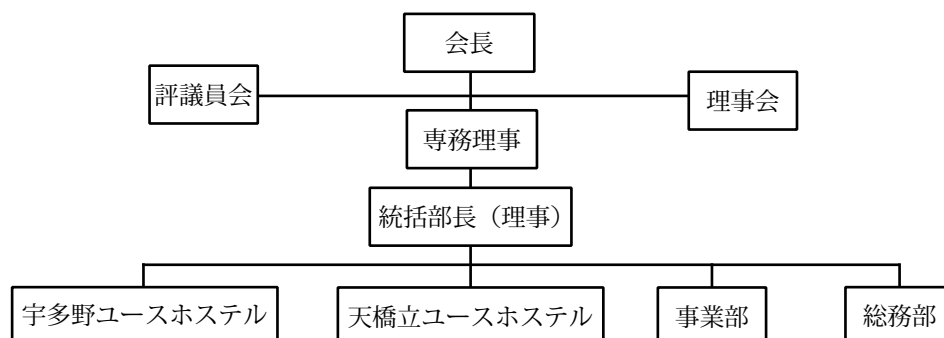
2. 情報発信

- a. 発信発信システムの整備
ホームページをblog型ソフトとSNSを連動に変更し、更新性を高めます。
- b. 情報発信の強化
メールマガジン登録者数を3,000名にします。
(現在 約1,000名)

3. その他

- a. つどいの広場事業の移管
12年度末をもって受託終了にあたり、他団体への事業移管およびその準備・協力を行います。

(2) 運営体制



部門	事業署名	職員		バイト・パート	小計
		管理職	一般職員		
事業部	事業部	1名		1名	2名
宇多野ユースホステル	宿泊・イベント	1名	5名	12名	18名
	食堂・物品販売		1名	6名	7名
	つどいの広場		1名	6名	7名
天橋立ユースホステル	天橋立	1名(理事兼務)	2名		3名
総務部	総務部	1名		1名	2名
合計		4名	9名	26名	39名

※一般職員の中には、非正規雇用(嘱託・契約職員)も含む。

IV. 予算

(1) 予算概要

一般財団法人移行後はじめての通年予算です。
11年度見込については移行後ではなく昨年1年間(4-3月)として計算しています。

1. 予算概況

過去3期の当期経常増減額(経常利益)は黒字基調で推移しており、06年度より継続してきた基本給5%カットを廃止します。また将来の業務効率の向上をめざして、レジシステムを新規なシステムに入れ替えます。この結果経常利益は、対前年比で減少し、616,000円となります。

2. 公益目的財産額について

移行前の法人が税制上の優遇などにより法人内部に留保した財産を一般財団法人移行時に引き継いだ公益目的財産額は55,539,820円です。

この公益目的財産は、京都府が認めた事業をによって0円になるまで継続的に実施することが求められています。

2012年度の公益目的事業支出は、5,672,000円を予定です。

【予算実績の経緯】

	09年度実績	10年度実績	11年度予算	11年度決算見込	12年度予算
経常収益(売上)	203,096,000	192,220,610	201,738,000	189,087,000	200,450,000
事業推進業務	63,257,000	64,854,000	65,517,000	60,021,000	64,883,000
ユースホステル運営業務	134,195,000	123,513,000	133,056,000	125,962,000	132,826,000
組織運営業務	5,644,000	3,854,000	3,165,000	3,104,000	2,741,000
経常費用(費用)	186,889,000	187,191,000	198,587,000	186,290,000	199,834,000
事業推進業務	45,036,000	58,635,000	59,889,000	56,473,000	58,378,000
指定管理業務	127,723,000	118,150,000	128,493,000	116,334,000	125,763,000
組織運営業務	14,130,000	10,405,000	10,205,000	13,483,000	15,693,000
当期経常増減額(経常利益)	16,208,000	5,030,000	3,151,000	2,797,000	616,000
経常外増減額(経常外利益)	▲6,870,000	0	0	▲16,925,000	0
当期正味財産増減額(純利益)	9,338,000	5,030,000	3,151,000	▲14,128,000	616,000
次期正味財産期末残高	60,936,010	65,966,000	69,117,000	55,989,000	56,605,000

※11年度決算見込での経常外増減額は、有価証券(国際復興開発銀行債)の売却によるものです。

【内公益目的事業】

	11年8月移行時	11年3月末	12年予算
公益目的財産額	55,539,820	55,539,820	44,805,820
公益目的事業支出	0	10,734,000	5,672,000
次期繰越額	55,539,820	44,805,820	39,133,820

※11年3月末については、移行後に京都府へ提出した11年度公益目的事業支出計画ならびに有価証券の売却損に基づき計算しています。

(2)2012年度予算書

※「2012年度予算書」は別紙あり。

組織概要 (2011年8月1日現在)

【団体名】	一般財団法人 京都ユースホステル協会
【代表者の役職氏名】	会長(代表理事) 堀場 厚
【財団設立】	1968年2月12日 ※2011年8月1日(一般財団法人への移行登記)
【団体役職員数】	評議員 9名 理事 9名 監事 2名 職員 12名
【団体所在地】	京都市右京区太秦中山町29 宇多野ユースホステル内
【電話番号】	075-462-2312(代表)